



同窓会会報

発行：獨協埼玉高等学校同窓会 発行人：玉山 栄一
〒343-0037 埼玉県越谷市大字恩間新田字寺前316
☎048-977-5441 FAX048-977-2031
e-mail : dosokai@dokkyo-saitama.ed.jp
URL http://www.dokkyo-saitama.ed.jp/



2008年3月をもって退職なさった石井先生に、獨協埼玉での思い出を開校当時から振り返って頂きました。

開設の頃から

石井 征次

埼玉県に新しい高等学校を設置することが明らかになった昭和54年4月、目白の中学・高等学校に勤務していた4人の教諭が開設準備教諭として勇躍、埼玉の地にやって来た。当時まだ40代後半の新宮教諭を筆頭に、30代半ばの私、30になったばかりの加倉井・紀内両教諭の4人だった。

今から30年以上前のこととはいえ、加倉井氏を除いて運転免許もなく、残りの3人は忙しく仕事をしながら自動車教習所に通って免許を取得した。新しい学校を設立するには機動力が必要だった。埼玉県内はもとより、東京、千葉の通学範囲とみなせる中学校にはどうしても新設校としてのアピールをしにいかなければならなかったからだ。

とにかく忙しい1年間だった。週に3日、目白で12時間の授業をして、残りの日で開設準備の仕事をした。

とにかく、やることは山ほどある。今だったら勘弁してほしいというかもしれないが、若いて素晴らしい。そうした目の回るような日常も少しも苦にせず、夜な夜な議論をしては飲み、飲んで議論をして、なにやら終始意気軒昂と

していたような気がする。

当時、せんげん台から学校までは建物



第10回同窓会講演会にて

も少なく、そこいらじゅうに葦原もあって、しぎの仲間たちがたくさん渡って来ていたように記憶している。あの俊敏な獣、イタチまで駆け巡り、なんとも自然豊かな環境であった。

そして、まだセメントも生乾きの図書館を受付場所として、初めての入試受付が始まった。学校回りの手応えも上々で、なにせ、こちらは楽観を絵に描いたような4人組。もしかしたら3000人くらいの志願者が来るのではないかと、今から考えるとおよそ常識外れの予想をして、準備万端、その日に備えた。

結果は、楽観的な予想の4分の1を下回るものだった。

この悲しみは、李白の5言絶句「白髮三千丈」になぞらえて、今も「白髮三千人」として4人の間では語り伝えられている。

ただ、新設校として、将来に大きな希望を感じさせたのは、合格者のうちの入学者の割合（歩留まり率）が、80パーセント近くに達したことだった。志願者3000人の予想も常識外れのものだったかもしれないが歩留まり率が80パーセントに近いというのも、特に埼玉県私学では常識外れで、いろいろあったとはいえ、

希望にあふれる船出だったと今でもそう思う。

そして、あの恐るべきエネルギーに満ちた1期生・2期生との出会い。古の大人の風格を漂わせた頑固な矢島初代校長を説得しての男女共学の実現。学校が突然華やかになった。後はしばらくとんとん拍子で人気上昇。生徒たちにとっても教師にとっても楽しい学校生活がここにはあった。

それから学校はまた変わる。平成13年4月に開校した獨協埼玉中学校。中学生、特に1年生なんてまだ可愛いね。それと、ゆったりとしたスペースの第2体育館。ずいぶん変わってしまったと思う諸君もいるかもしれないが、ここは、君たちが青春時代を過ごしたキャンパス。私も開設から関わりあった4人組も後期青春時代を過ごしたキャンパス。懐かしい匂いが一杯だ。いずれ、ここでまた会おう。



左から、石井先生、小栗先生、加倉井先生

同窓会長 玉山栄一



あるスポーツ選手が父から独り立ちしたときの話です。スランプに陥った時には必ず父から

のアドバイスを受けていました。しかしアメリカへ渡り現地のコーチから「これからあなたは、あなた自身のCEOになりなさい」と言われたそうです。自分を一つの企業になぞらえ、その責任はすべて自分が負わなければ勝ち抜く事はできない。さすがアメリカ！言う事がカッコいい。

社会においても大小含めさまざまな挫折の連続です。それをいちいちどうやって親が守り続けられるのでしょうか。これからの格差社会、多様性が求められる時代に、新しい発想で新しいアイデアを生み出し、未知の領域に立たされた時、自分の頭で考えて問題解決できる人間でないと生き残れません。そういう点で言うと、獨協埼玉では自然と生き抜く力を授けられたような気がします。残念ながら、学校の産声と同時に今までご尽力されてきた石井先生をはじめ諸先生方が退任なされましたが、本当にすばらしい学校を作っていたのだと深く感謝しております。決して我々は、サラブレッドのような長い脚も風になびくたてがみもないのですが、障害を乗り越える能力は負けていません。

校長 柳町道廣



既にご存じの方が多いいと思いますが、今春、石井前校長の後を受けて、五代校長に就任しました。どうぞよろしくお願いします。「誰だ？柳町って」と思った方と、

「えー柳町が校長になったの？」とびっくりした方と、おそらく二通りの反応があったのではないかと想像しています。それもそのはず、私が東京の某私立高校から本校の国語科の教員として移ってきたのは第六期なので、それまでの卒業生には面識がないわけです。それでも、獨協は獨協です。誰が校長になろうが、甘い月餅が辛い月餅になろうが答がないのです。いつでも顔を出して下さい。

ただ、獨協埼玉ももう二十八年が経過し、創立当時の教員もずいぶん歳をとり、この度も石井先生とご一緒に四人もの名物教師が職場を去りました。私も石井先生にはもう数え切れないほどの教えを受け、とりわけ中学校設立以来の募集活動では本校コンセプトのアナウンサーとしてコンビを組んできました。教師としても人間としても本当にお世話になったのです。また、獨協埼玉高校設立当初から石井先生と共に関わった目白組の加倉井先生と紀内先生には、先輩として現場の様々な仕事を教わりました。加倉井先生には入試業務と生活指導で、紀内先生には私の学年主任当時の副主任として、それぞれご教示を受けました。さらに高島先生には部活動の卓球部顧問の指導で、小栗先生には生徒に妥協しない教科指導の面で多くの影響を受けました。個性的な教員が多い本校の中にあつて、ひととき個性を發揮した先輩諸兄の残した足跡をこれからも本校の財産として

大切にしていかなければなりません。幸い紀内先生は非常勤講師として引き続き教鞭を執ってくれますから、ご安心下さい。

私は北海道函館の私立男子高校の出身で、同窓会があつてもなかなか帰省できなかったものですから、同窓会の度に顔を揃えている本校の諸兄を拝見するたびに羨ましく思っています。というのも、私自身高校時代の仲間や恩師との思い出は、他の時代とは比較にならないほど印象に残るものであつたし、ユニークなものであつたからです。当時私は演劇に夢中で、部員による創作劇を引っ提げて地区大会に挑戦していたものです。男子だけのハンディを補うために創作劇という方法をとったのですが、逆に当時の若者が抱いていた社会の矛盾点に対する不満を直接ぶつけることができたように思います。毎晩遅くまで稽古に励み、激論を戦わせ、深夜に帰って親父にぶん殴られたこともありました。あの時の仲間から受けた影響は、その後の私の方向を決定づけたと言つても過言ではありません。

一方、男子校であつたため、共学の生徒が羨ましく、肩を寄せ合つて学校の前を通つていく隣の公立高校の男女の姿を窓から見ると、冷やかしの奇声を発して教員に叱られたことも一度や二度ではありません。逆に男子校故の気楽さもありました。夏の猛暑の日など上半身裸で授業を受けたこともありましたが、男性教員（ほとんど男性でした）も同姓の気安さで結構きわどい話もしていたようでした。数々の思い出が脳裏に蘇ってきます。

彼らに会いたい！それが叶えられないにしても、せめてもう一度自分にカツを入れるために、今年の夏あたり、本当に久々に母校を訪れてみるとうれしいでしょうか。

第十一回同窓会総会・懇親会開催

梅雨の晴れ間の7月5日(土)に、第11回同窓会総会・懇親会が本校小ホールにて開催されました。総会では、19年度の報告と20年度の計画が議案に上り、新しい提案として、卒業証書入

れを卒業記念品として贈る議案が提出されました。承認をいただいたので、これまでの体育祭ジュース提供に代わり、卒業生に同窓会が卒業証書入れを贈ることになります。

総会後の懇親会では、この春に退職された石井先生・小栗先生・加倉井先生をお迎えして、講演会・トークショーが企画され、獨協創設期から退職された現在の様子等をお話いただきました。卒業期が一ケタの卒業生から卒業したばかりの26期生(中学2期生)まで、先生方にゆかりのある多数の同窓生にお集まりいただき、大変賑わいました。

年に一度の総会・懇親会。同級生を誘って(お一人でも大丈夫です!)懐かしい母校へ是非遊びにいらして下さい。卒業期を越えて母校で楽しいひと時を一緒に過ごしませんか。来年も開催されますので、奮ってご参加下さい。



決算・予算報告

平成19年度決算書 H19年4月1日~H20年3月31日

収入の部		支出の部	
★前年度繰越金	18,192,032	★次年度繰越金	19,391,203
★終身会費卒業生	2,780,000	★総会費	561,625
★終身会費既卒業	350,000	★会報費	1,263,746
★利息	12,052	★幹事会費	30,000
★懇親会収入	108,000	★慶弔費(花束)	18,900
		★体育祭ジュース	173,670
		★結婚祭消耗品	2,940
合計	21,442,084	合計	21,442,084

平成20年度予算(案)

収入の部		支出の部	
★26期生 終身会費	2,990,000	★総会費	561,625
★H19年度より繰越金	19,391,203	★会報費	1,263,746
★預金利息	2,500	★幹事会費	30,000
★懇親会収入	60,000	★慶弔費(花束)	18,900
		★卒業アルバム保管用	13,800
		★企画費	500,000
		★卒業証書入れ	400,000
		★予備費	19,655,632
合計	22,443,703	合計	22,443,703

湖上の日・IV

第四回ホームカミングデーを振り返って



去る、平成19年10月6日、4期生ホームカミングデーが開催されました。100名以上の出席者があり、大盛況でした!2次会へも90名が参加した為、居酒屋さんでもんやわんやという感じでした。本当に盛り上がり楽しい会となりました。

玉山同窓会長から、どうしても幹事を...と仰せつかり春頃から準備に入りました。各クラスから男女1名ずつをクラス幹事として募り、23名体制で名簿の作成・企画当日の会場設営に至るまで全て手作りの同窓会でした。幹事会の段階で既に盛り上がりつつあったので、大成功の心配は充分にありましたが、そして迎えた当日、まず始めに感じたことは、みんなかつこい!素直に年を重ねているなあというところで、22年間、それぞれの分野で各々が活躍し充実した社会生活を営んでいる。又は家庭を築き新しい命を育むことで更なる自己成長を実感している。そんな活々とした空気が懐かしい感嘆の声の中に漂っていました。とはいえ、ビールで乾杯したあとは皆まるで子供のようにはしゃいでいましたね。スーツ姿でパツチリ決めた外科医のT君も後手に羽交い締めされてお腹にパンチ!...とか、ズボンを下ろされパンツ姿でウロウロ...とか、昔のままのわんぱく小僧です。ワタクシ個人的には、大好きだった男子に再会できてたくさんおしゃべりできたのでとてもハッピーでしたね!そんな甘酸っぱい思い出に浸れるのも同窓会の良い所です。それから一番注目されていたのは、当時100kg位あったのではな

いかというくらい太っていたK君が、すっかりスマートになって登場したことです。相当な努力をされたのでしょうか。素晴らしいですね。中にはまだ独身の人もいました。良い出会いの場になったのであれば幸いです。朗報などございましたら是非ご一報下さいませ。

もう一つ感じたことは、先生方が昔のままです。皆サマお若い!ということですが、常に若者と接しておられるからでしょうか。ご自身が休むことなく学習意欲を保持されているからでしょうか。俗世間から汚されていない無邪気な(?)大先輩方にお会いして、当時の授業風景を思い出さずにはいられません。石井校長先生を始め、学年主任でいらした河端先生、各クラス担任の先生方、そしてお世話になった諸先生方からお一人ずつお言葉を頂いた時はまさに教壇に立たれていたのでそのままのお姿で、皆真剣に聴き入っていました。お忙しい中ご参加下さり心より感謝申し上げます。又、ご欠席された岩田先生と沢田先生からはお手紙を頂き皆の前で読ませて頂きました。お便りでの再会も又感慨深いものですね。

後日、出席者からたくさんメールを頂きました。喜びと感謝に満ちた温かい労いの言葉ばかりでした。

40才を過ぎて未だ感うことしばしの日常にあつてこれ程励まされることはありません。幹事を努めさせて頂いて本当に良かったと思っております。

準備段階から支えて下さった同窓会長を始め、事務局の先生方、そして何より快く協力を引き受けてくれたクラス幹事の皆さん、本当にありがとうございます。

また、節目の年にお会いしましょう。

(奥泉裕子・4期生)



40歳 になったら学校へ行こう！ ～5期生ホームカミングデーのお知らせ～

5期生のみなさん。卒業から22年が経ち、いよいよ我々の学年同窓会の年がやってきました。中学校が建ち、校長先生も5代目となり、ジャージや制服も新しくなり…、あの頃とは獨玉も大きく変わりましたが、人生の節目となる40歳に母校を訪ねてみませんか？皆さんのご参加を今や退職されてしまった先生方も心待ちにしております。

日 時：2008年10月18日（土）

一次会：14：00～ 獨協埼玉中学高等学校小ホール

二次会：17：00～ せんげん台駅周辺のお店で懇親会

*もちろん、お子様連れの参加もOKです。

連絡先：koujiya0006@yahoo.co.jp

（都築能男）

048-977-5441（獨協埼玉中学高等学校 小平・森脇）

実行委員：都築能男（卒業時8組）

小平 茂（卒業時6組）

森脇 淳（卒業時7組）



祖父を3歳で亡くして、私にとってその力強さに祖父を強く感じ、見守られている安心感、家族愛を強く感じたのである。この様な捉え方をしたのは私一人かもしれない。

そんな中、私はひたすら感動していた…。パンツが買えなかった苦勞話にでも、それから努力され理事長先生にまでなられたサクセスストーリーにでもない、ただ、お前たちは幸せだ。の一言にだ。勝手な推測だが語意には今は皆がパンツ（たぶん短パンの事と推測される）を買ってもらえて体育祭にも参加できる良い時代になった。これを当たり前とは思わず日々感謝し研鑽に励みなさい。私をはじめ獨協学園が付いているぞ」と解釈した。

昭和55年第一回体育祭…今でもこの日の事は鮮明に覚えている。関渡理事長先生のご挨拶：「今では高校昇降口先の中庭に銅像にお姿を変えられ日々暖かく見守ってください（笑）」。

開口一番、お前たちは幸せだ！俺が小学生の時はパンツが買えなくて運動会に出られなかった」と涙ながらに大きな声でご挨拶された。一同静寂、その後ざわめき、そして笑いが起きた。

獨玉家（ドツタマケ）

獨協埼玉は家族だと思ふ。縁あって親子2代で獨玉にお世話になっている。私は1期生、娘は29期生（現在高校1年、中学からお世話になっている）。子供を入学させた卒業生第1号だそうで光栄でもあり、こっぴどかしいところでもある。

1期生でこのご挨拶を知らなかったら間違いなくモグリだ。今でも飲み会の度に出てくる話題である。



私にとって獨玉とは？自問すると原点は間違いなくここにたどり着く。獨協埼玉「家族」と言う思い。娘を入学させたいと思うのはごく自然な流れであったと思う。

娘は中学入学から現在までの3年と2ヶ月、無遅刻、無早退、無欠席を続けている。日々とても楽しそうだった。私は今となっては時効だが、親にだまってお空の叔父の忌引きを申請していた事を思い出します。

これからは時代こそ違いますが獨協埼玉高校と言う同じベクトルで行事や勉強の事などを娘と語り合える事は何よりの幸せだ。そして今でも獨玉の家族愛が賑々と受け継がれていて娘も十二分にその恩恵を享受させていたに違いない事に感謝申し上げ、我々1期から29期の現在まで賑々と家族愛を実行し続けて頂いた先生方には厚く御礼申し上げます。

最後に私事で恐縮ですが、現在、私は卒業生として同窓会幹事、1期生の会長、保護者の立場からPTAの役員としてお世話になっていきます。登校する機会も多く、校門をくぐったら高校生に戻った気になって元気を頂いております。是非、皆様も獨玉家に里帰りされ、ちゃぶ台でお茶でもいかがでしょうか？

1期 杉崎 良樹

教員座談会

司会

今回のテーマは、せんげん台駅から学校までの道のりでの様々な思い出について、お話しいただきたいと思えます。まずは、駅前周辺の様子について、お願いします。

酒井

私のころは、駅前は今ほど店もなく、思い出すのはミニストップ(地図A)に部活帰りに寄り道したことですね。

成瀬

そういえば私のころも、ミニストップしかなかったから、よく行きましたよ。仲間といつも、店内の席を占領していましたね。

高田

学校帰りといえば、大通り沿いのカラオケ、「王城」(地図B)に行っていたことがあります。

司会

王城は今でもありますね。私たちも、試験最終日になると友達と行きました。

酒井

私のときはカラオケではなくて、ピリヤードをした覚えがあります。最上階にありましたよ。あの時はピリヤードが流行っていたんですよ。今はもう無いのかな。



司会

無くなっ
てしまっ
たもので
印象が強
いのは、
「すかい
らーく」
(地図C)
ではない
でしょう
か。今は
大きなマ
ンション
になって
いますね。

成瀬

あのすかいらーくはちょうど私が高三のときに出来た記憶があります。

高田

あと、大通りの向かい側に「ニチイ(現在のサテイ)」(地図D)も出来ましたね。この頃から少しずつ賑やかになってきたんですね。

酒井

私のころはまだ空き地だったので、奥にあるパークタウンがよく見えましたよ。

成瀬

そういえば、学校から見える和菓子屋さんの場所(地図E)は、昔は中華食堂でした。たしか毎週火曜日がラーメンの日で一杯二百円だったと思います。

司会

そのラーメンは食べてみたかったですね(笑)。でも、そのお店が変わった以外では、まだまだ学校の周りは田畑も広がり、のどかな風景が残っていますね。

高田

のどかな風景と言えば、川沿いもそうですね。「せんげん堀商店街」(地図F)のパン屋さんも昔のままです。春になると桜並木もきれいですね。あの風景を眺めながら通える生徒は、今も昔も幸せですね。

司会

参加者 酒井直樹先生(7期生)
高田晶子先生(10期生)
成瀬博文先生(10期生)
梨本佳世(19期生)
有光眞織(20期生)



せんげん台駅 獨協埼玉行きバス停の今

「部活動紹介」



水泳部は、高校創設当時に発足しました。私が在籍していた当時は、各学年数名ずつだったので、ひとり1コースずつ使って練習ができました。近年は、部員数が増加したと聞いております。1コースに複数の選手が入って、皆でコースを共有し、相手のしぶきや波をかわしながら練習していると思います。それを考えると、我々は随分贅沢な練習環境だったと思います。

発足当時は、太田先生、澤田先生、藤田先生と複数の先生方に顧問としてお世話になりました。その後、私の卒業と同時に尾花先生に引き継がれたと伺っています。

在籍当時のことで最も印象に残っているのが、昭和57年の鹿児島インターハイです。当時、全国大会レベルの丸山さん(3期)が在籍していました。関東大会をクリアして見事インターハイ出場となりました。太田先

生に引率していただき、マネージャーの私が世話役として同行させてもらいました。

全国の水泳強豪校のジャージを見て、圧倒されていたことを思い出します。練習もアッププールの隅でコソッとやりました。今思えば、

私自身、初めての全国大会でビビっていたのかもしれない。結果は、予選落ちとなり、あえなく終了となりました。

大会には、熱心な部員(丸山さん・西村さん・2期、平手さん・3期)がお小遣いをはたいてはるばる鹿児島まで応援に来てくれました。『こんなにも遠くまで...』と驚きました。同時に仲間意識や友情も感じました。(ちなみに丸山さんは、その年の国体、翌年の愛知インターハイにも出場しました。)

実は、私は金種でした。そこで、泳ぎを習うために水泳部に入部しました。ある程度泳げるようにはなりましたが、競技ができるレベルには程遠かったため、気づいた時には、丘の上がって、皆の世話役(マネージャー)になってました。用具係、水質調整、計測等々、雑用を担当しました。当時の自分を振り返ると、世話役をやっているうちに人間的に少しずつ変化していったように思います。元々は引っこ込み思案の性格でした。しかし、世話役の自分を必要としてくれたメンバーのおかげで、少しずつ自分に自信が付き、行動に積極性が出てきたように思います。(今ではあつかましいくらいガンガン前面にでる性格になりました。)

そういう意味では、あの頃は人間形成の転機だったのかもしれない。「学問(学校生活)を通じて人間形成を行う」という文字通り獨協イズムを体得した青春期でした。

(小野岳二 2期生)



全国大会レベルの丸山さん(3期)が在籍していました。関東大会をクリアして見事インターハイ出場となりました。太田先



小栗友彦

久しぶりに同窓会の懇親会に出席させていただいた。むろん退職後初めてである。多数の同窓生が参加しなつかしい顔に出逢った。人は変わる。出席者の中には未だ学生の諸君もいたが、世に社会人と呼ばれて久しい人たちも多かった。それぞれその生活体験の量と質に応じて「変化」していた。では何が変わったのだろうか？人を変える要因は、外力に追従することによるものと内的な自己陶冶によるものが考えられる。

自分を取り巻く社会の不条理に依存する生活がいくらいやでも、それが現実なんだから現実を受け入れてその上で少しでも生活を良くするように努力すべきである、という考え方をする人もいる。しかし、そうすることによって得られるものは空虚な充実でしかない、と考える人もいるはずである。

今日の（日本のあるいは世界中のいくつかの地域での）歪んだ現実、矛盾をはらんだ現実の具体例を見よう。先日ある受験産業の夏期講習の新聞広告で「この夏休み他人と差をつけよう」と謳っていた。この言葉を何の懷疑もせずに入れてしまうことがいかに多いか容易に想像できる。事も有るうに学校の現場でさえ日常化されている場合も有る。他の例では、近年「勝ち組」「負け組」という表現がマスコミ関係でよく目にされるようになった。人気者と

言われたがとて賢人とは言い難い某元首相は「誰でも勝ち組になるチャンスがある世の中にした」と平然と言いつつ放っていた。しかし誰が勝ち組になっても大多数は負け組である。当たりとハズレのあるくじで誰でも当たるチャンスがある、と同じ事である。

いずれの場合も根は共通で、個人主義的な発想が欠落しているのが原因である。個人主義は自分自身も含めて個人一人一人の意義と価値を重視する立場を持つのに対して利己主義は自己のみで他を顧みない。また全体主義は利己主義の最たるものである。

私たちはどうすればよろしいのだろうか。まさに、「どんな生活をするか」を追求するのではなく、「いかに生きるか」の問題である。時代や社会状況を超越した意義をもつ生き方を求めるべきである。先日の同窓会の懇親会で「退職後の第二の人生はどのように送るか」の間に、冗談で「今までの第二の人生のようなもので今後が人生の本番だ」と答えたが、人生は一度しかない。たとえ仮の宿りとしても、年齢や生活環境を超えた普遍的な価値をもつそれぞれの生き方を求めるべきである。

「楽しかった」から「楽しそう」へ

紀内恒久

いつの間にか、そう、本当にいつの間にか、還暦を迎えてしまった。

勤めつけようと思えば、あと5年ほどはいられるのだが、60歳を機に専任教諭としての生活に終止符を打つことにし

た。かねてから60歳になったら人生に区切りをつけたいと思っていたのだが、子どもも巣立っていったし、自己満足かもしれないが自分なりに賢明に37年間働いてきたのだから、もうあとは誰もためでもない、自分のためだけに残りの時間を過ごそうとしたって罰はあたらないだろうというところだ。

37年間の教員生活、まあいろいろなことがあったんだろう。というところで他人事のようにだが、実感としてはそんなものだ。若い頃、定年退職をしていく先輩が、「終わってしまったえばあつという間のこと」と述懐していたことを、いま、まったくそのとおりだと共感している。でも、振り返ってみてひとつだけ言えることといえば、とつても幸せな教員生活だったということだ。その最大の要因は良き生徒にめぐり合えたことにかならないと、きみたちには感謝の気持ちでいっぱいだ。おかげで、退職1年前まで現場の担任教員として生徒たちとかわれたことを、本当に嬉しく思っている。いやな思い出や辛いことなど何も残っていない。すべて楽しく嬉しいものに私のなかでは昇華されてしまっている。こんな幸せなことはないだろう。

いま、週8時間の非常勤講師勤め（もちろん、獨協埼玉で）をしながら、若い頃から大好きだった落語にのめりこんでいる。近所の落語サークルで若い人たちと一緒にあって、学生時代の頃のようにしゃべっている。そのほかにも、これやろう、あれもやってみよう、模索中だ。

第二の人生、まだ始まったばかり……

獨協埼玉高校の思い出

高島宜磨

思えば二十七年前、宮崎、鹿児島、修学旅行の研修会で、元教頭の植原先生との出会いがあり、今というヘッドハンティングで、男女共学一期の学年を担当することとなり、獨協の教員生活を迎えることとなりました。丁度、獨協の完成年度でした。当時の始業式は男子校から共学になったことで、式中うるさくて誠にびっくりでした。あの穏やかなで、格式ある、八嶋校長先生が、大きな声を張り上げ、ご立腹されたことを、獨協の第一印象でした。その後は、段々と変化があり、生徒達も成長したと思います。

部活動においては、今よりもかなり盛んで、各クラブ良い成績を挙げておりました。特に個人競技においては、テニス、陸上などは全国大会に出場していました。私も、卓球と囲碁将棋、そしてソフトボールを持たせてもらいました。卓球と囲碁将棋は個人の戦いですので、一人ひとりの思い出がたくさんあります。だけどソフトボール部の思い出はチームとしての各年代毎に、素晴らしい思い出が一杯ありすぎる程あります。藤田先生と酒を酌み交わせば何日も語り続けたいよう。そんな良き思い出を作ってくれた卒業生に感謝しております。

修学旅行の思い出もいろいろあります。男子校のときは、山陽山陰で共学生からは、九州の長崎が中心になりました。今は沖縄に決定しておりますが、当時、長崎方面の前案として、沖縄を企画しましたが、矢嶋校長先生曰く、飛行機は駄

目だと一喝されて、しばらくは九州の旅となった思い出があります。(今や、矢嶋先生も草葉の陰で許していると思いますが) いまや、この時代いつまで続くのかな。

最後になりますが、同窓生の皆様、皆さん一人ひとりとゆっくりと、話し合いたいものです。

♪♪♪「また逢える日まで」♪♪♪

第33回コンパニョンの年(昭和33年)

加倉井憲一

昨年度をもって獨協学園を退職することになり、獨協中高等学校と獨協埼玉中高等学校34年間の教員生活に無事ピリオドを打つことができました。充実した教員生活を送れたことはよい生徒と保護者・同僚に恵まれたおかげと思っています。

さて、今年は隣の中国でオリンピックがです。1964年、今から45年前、私が高等学校2年生の時は東京オリンピックがでした。10月10日に東京オリンピックが開催、その年の10月1日には東京・大阪間で新幹線の運転が始まり、東名高速道路もこの時期に開通と空前の交通革命でした。大きく日本全体が変わるときでした。当時は車も少なく、テレビが急速に普及した時代ですので、環境汚染や食の安全に大きな問題はありませんでした。前日の雨もあり、空が大変澄んでいて、オリンピックの開催日の自衛隊ジェット機による快晴の空に描かれた五輪の輪を今でも覚えています。

生活も豊かになりました。着物・もんぺからスーツ・スカートへ、ご飯と味噌

汁からパン・牛乳へさらにインスタント食品へ、木造住宅・長屋から団地・マンションへと、衣食住すべての環境が大きく変わりました。1960年からの15年間で東京・大阪・名古屋の三大都市圏に1533万人が流入し、それとは反対に、農業と農村が変貌して、50年に300万戸あった専業農家は70年85万戸に激減してしまいました。映画「三丁目の夕日」に登場する集団就職や出稼ぎで、過疎の農村には「3ちゃん農業」が残ってしまいました。農村にも工場を誘致し、コマールを通して都市型消費が組み込まれました。その後は一気に高度成長でした。1960年当時、オゾン層の破壊や温暖化はほとんどの人が問題にしていま

せんでした。これから日本がどちらの方向に進むのかは私には予想が付きませんが、今までの戦後の歴史を復習し、後戻りでなく東京オリンピック以前に環境の基本を戻し、懐かしい未来を実現するようお互いがんばりましょう。お隣の韓国では都市の高速道路を外し清流を取り戻したり、ドイツでは護岸のコンクリートを外し元の河川環境に戻しています。追伸 現在、連合大学院で土壌学の勉強をしています。

退職された先生方の思い出

依田善朗

もう30年近く前になる。獨協の校舎が完成間近のころ、構内を見学して回った



左より、小栗先生、紀内先生、加倉井先生、石井先生、高島先生

のをふと思いだした。ヘルメットをかぶり、先頭を切つて皆を案内していた人は、下駄のように真四角な顔の人であった。工事の現場監督だろうと思っていたが、何とその人が私と一緒に国語を担当する石井校長であった。人は見かけによらないという言葉を実感した。それから30年間、石井校長は常に教員の先頭に立ち、獨協の礎を築いていったのである。机の片隅には大江健三郎の本が置いてあった。今頃は熱心に読書なさっているだろう。スリムで能弁な紀内先生とがっちりとして無口な加倉井先生が石井校長を補佐して獅子奮迅の活躍であった。教員としてのいろはをお二方から教わった。感謝している。

獨協のアインシュタインこと小栗先生。そのぼうぼうの髪の毛を染めたことがあった。人の意表をつくことを好んでなさり、皆を楽しませてくれた。高島先生には囲碁や将棋を始め、人生いかに楽しむかを教えて頂いた。個性豊かな先生方とお仕事を共にさせていただき、幸せであった。

●教育実習を終えて●

実習の初めは全てが上手くいかず、やめたいと思う時が何度もあった。しかし、積極的に動くことで、授業もそれらしくなってきた。生徒とも話していくことができた。私は、この実習で生徒と過ごした時間を一生忘れない。実習はとも貴重な経験となった。

峯 慎一

3週間の教育実習が無事終了しました。この3週間で、教員という職業の大変さを痛感しました。たった50分の授業は3時間前後の予習の集大成です。学生の頃、授業は努力の塊であることを知らずに居眠りをしてしまった事がある事実を恥ずかしく思いました。

宮地 彩

私は、この3週間という短い期間でたくさんのお話を学びました。まず予想していたよりも、人に物事を伝えるのが難しいということ。伝えることができないのに、うまく伝えることができない。そんな悩みを抱えた日々でもありました。しかし皆さんの生徒と触れ合うことで、本当に充実した日々を送ることができました。

実際に教壇に立つた者にしかわからないことを、色々と経験することができたと思います。この3週間は本当に大変だったけれど、私にとっては忘れることのできない大切な経験となりました。

上田 恵理



普段大学生である私が18日間教師として教壇に立つことは、「先生」を演じることのように思いました。「先生」がたとえ演技だとしても、生徒はそれを受け入れて数々の成長を見せてくれました。今回経験した教師のやりがいと私の一生の宝にしていきたいです。

結束 まな美

第29回 蛙鳴祭 9月20日(土)・21日(日) 10:00~15:00

今年のテーマは **CHANGE** です

校長先生も変わり、ご来校された方々の気持ちを **Happy** に **Change** します。



入

試ミ二説明会 ※いずれも小ホールにて ※願書を無料で配布しております。

中学 9月20日(土) 13:30~14:30 **高校** 9月21日(日) 13:30~14:30



体育祭

今年もお揃いのカラーTシャツに身を包み、汗と涙を流す体育祭の季節がやってきます。自由にご覧いただくことができますので、お時間がありましたら、是非お越しください。

高校 10月2日(木) 10:00~

中学 10月25日(土) 10:00~

入試

募集 中学：男女共学4クラス160名
高校：男女共学4クラス160名

*詳しくは...
学校HPを
ご覧ください。

説明会 中学・高校 9月28日(日)・10月26日(日)・11月23日(日)
中学のみ 12月13日(土)



宗像さやか (19)	村上 恵理 (19)	植原 浩美 (18)	坂本 育美 (18)	関 淳一郎 (18)	仲田 英起 (17)	深瀬 和之 (16)	永井 穂 (16)	小黒 清貴 (16)	田ノ下 紀子 (16)	竹内 友洋 (13)	櫻井 広仁 (13)	金久保佳代 (12)	岡崎 陽子 (10)	川島 信也 (9)	井上 友子 (8)	瀬戸 てるみ (8)	小久保博文 (6)	森脇 淳 (6)	橋本 行正 (4)	奥泉 裕子 (4)	吉本 博之 (3)	水谷 功 (3)	武田 信 (3)	市橋 秀紀 (2)	小野 岳一 (2)	増田 浩一 (2)	杉崎 良樹 (1)	片桐 岳信 (1)
勝股 修平 (26)	夢川 彩子 (26)	岡野 沙也花 (26)	武内 保香 (26)	正岡 正樹 (26)	大石 さやか (26)	山田 敬一郎 (26)	吉田 美果 (26)	根本 明子 (25)	高橋 睦美 (25)	金本 幸美 (25)	井上 大史 (25)	市川 哲也 (24)	永瀬 梨加 (24)	伊藤 沙穂理 (24)	岡野 亮太 (24)	芳我 郁子 (24)	五味 測 輝 (24)	須藤 歩美 (23)	岡部 沙友里 (23)	安保 佳代子 (23)	佐藤 唯 (22)	村上 まどか (22)	高崎 菜月 (22)	加藤 友紀 (22)	丸川 怜子 (21)	五十嵐 玄 (21)	大山 みどり (20)	山口 麻里 (20)

幹事	片桐 岳信 (1)	山口 麻里 (20)
理事	玉山 栄一 (1)	永島 健次 (3)
副会長	酒井 直樹 (2)	成瀬 博文 (10)
会計	梨本 佳世 (19)	友野 行晴 (20)
会計監査	有光 眞維 (20)	
事務局	小平 茂 (5)	高田 晶子 (10)
事務局総務		

同窓会役員人事紹介

(括弧内数字は卒業期)

同窓会名簿の更新について
同窓会名簿の更新につきましては、現在、幹事会において検討中ではありますが、個人情報保護の観点から、具体的な更新日時を決定しておりません。あらかじめご了承ください。

同窓会での役割

- ① 同窓会運営に関するご意見がありましたら、上記の理事・事務局・幹事までご連絡ください。またできる限り、総会に出席していただき、その場で意見を寄せていただければ幸いです。よろしくお願いたします。
- ② 同窓生で同窓会からの郵便物が届かない方がいらっしゃいましたら、FAX・メール等で事務局まで情報をお寄せ下さい。後で同窓会会報等を郵送いたします。ご協力よろしくお願いいたします。
- ③ 住所などで変更がございましたら、獨協埼玉高等学校同窓会までお知らせください。
- ④ 同窓会は、同窓会活動を進行する上で取得させていただいた皆様の個人情報に適切に保護し、会報、同窓会が主催協力する卒業生データベースの構築のための情報提供に、これらの情報を利用します。※なお、情報の提供に同意されない方は、事務局まで届け出ください。
- ※最近、同窓会を名乗り、電話で個人情報聞き出すという団体があるようです。本同窓会では電話での問い合わせは一切しておりませんので、ご注意ください。

卒業生へのお願い

平成11年度の卒業生より、同窓会会則に記す正式に卒業年度に、終身会費を納めていただくことになりました。つきましては、既に卒業された同窓生にも終身会費(1万円)を納入していただきたく、納入票を同封させていただきました。同窓会の運営資金となります。趣旨をご理解の上、ご協力よろしくお願いいたします。
※既にお振込みいただいた方には振込用紙は封入されておりません。